

久原洪哉 奥方の乳がんを除去

華岡流医術に挑んだ医師たち



日時 平成29年4月13日(木) 午後2時～4時30分 (開場 1時30分)
 場所 山陽新聞社さん太ホール (Tel 086-803-8222)

基調講演

和歌山市立博物館元副館長

高橋 克伸

「華岡青洲と医塾 春林軒」

講演

岡山県立博物館元学芸員

木下 浩

「門下生 難波抱節・立愿親子と^{りゅうげん} 県南の門人たち」

講演

津山洋学資料館元館長

下山 純正

「美作における華岡門人の動静について」

主催 ● 公益財団法人 山陽放送学術文化財団 共催 ● 岡山日蘭協会
 後援 ● 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、津山市、津山市教育委員会、香川県、香川県教育委員会、
 公益財団法人岡山県郷土文化財団、山陽新聞社

久原洪哉・華岡青洲：津山洋学資料館蔵 難波抱節：武田科学振興財団杏雨書屋蔵

入場無料

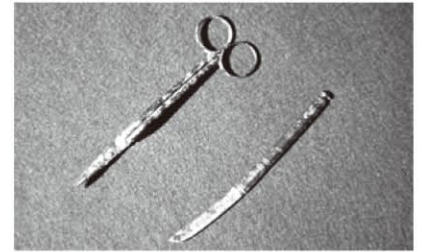
紀州の医師華岡青洲(1760~1835)は1804年、麻酔薬「通仙散」を開発し、世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功した。しかしそれは、麻酔薬開発中の実験で母親が死亡するなど、大きな犠牲を払うものであった。

青洲は縫合術を工夫し、乳癌だけでなく、膀胱結石・脱疽・腫瘍摘出術など様々な手術を行う一方、医塾「春林軒」を設け、存命中だけで1,100人をこえる門下生を育てたという。

備前金川の難波抱節(1791~1859)は私塾思誠堂を開き、「通仙散」を使って乳がんや脱疽などの手術を行い多くの人の命を救った。

また、津山藩では1870年、華岡門下の藩医久原洪哉(1825~1896)らが、イギリス人医師ウィリスの助言を得て、藩主夫人儀姫の乳がん除去手術を成功させている。

こうした麻酔による手術は、明治以降の近代医学の導入とともに形を変え、治療の可能性を大きく広げることになった。シンポジウムでは3人の研究者を招き、岡山県下に140~150人といわれる華岡門下の医師たちの動静と地域医療に果たした役割を考える。



コロメス、バヨネット型剪刀(医聖華岡青洲顕彰会蔵)



薬品古葉(医聖華岡青洲顕彰会蔵)

出演者プロフィール



高橋 克伸
(たかはし かつのぶ)

和歌山市立博物館元副館長。1954年和歌山県生まれ。専門は日本近世史・日本建築史。特に、和歌山城の城郭建築について研究。また、華岡青洲の門人の記録から華岡流医学の近世医学に果たした役割などを調査・研究している。特別展「近世日本医学と華岡青洲」、特別展「華岡青洲の医塾春林軒と合水堂」を担当した。共著に『版本地誌体系紀伊国名所図会』『日光田母沢御用邸記念公園本邸保存改修工事報告書』など。



木下 浩
(きのした ひろし)

岡山県立博物館元学芸員、中島醫家資料館主任研究員。1967年岡山県生まれ。専門は日本医学史・薬学史。特に、江戸期の岡山の医学史と備中売薬について研究している。岡山地方史研究会、日本医史学会関西支部などに所属。論文に「文政二年配剤記の研究」「中島友玄と岡山県邑久郡における江戸末期から明治初期の種痘」「沖新田の風土病肝臓ジストマについて」など、共著に『備中売薬』など。



下山 純正
(しもやま よしまさ)

津山洋学資料館元館長、1953年岡山県生まれ。専門は洋学史、医学史。特に、在村蘭学者の動静を追うことを長年のテーマにしている。洋学史学会、日本医史学会関西支部などに所属。論文に「蘭学重宝記の不可思議」「宇田川玄真病状記とその一年」など、共著に『在村蘭学の展開』『岡山県歴史人物事典』など。

ご希望の方には「優待席」をご用意します。
この用紙のままFaxでお申し込みください。

3月15日(水) 締切

お名前
(企業名)

〒

ご住所

申込人数

※2名までとさせていただきます。

ご連絡先
(電話など)

fax 086-225-5046

優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受け付けます。

◆e-mail nichiran@rsk.co.jp

◆ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内(公財)山陽放送学術文化財団

希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。

お問い合わせは 公益財団法人 山陽放送学術文化財団【tel 086-225-5531】

第8回予定

岡山蘭学の群像Ⅷ

シーボルトになろうとした男たち(仮)

平成29年8月25日(金) 山陽新聞社 さん太ホール